

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第348回

『劇団ひとり』

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年3月13日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

寒いなあと思ったらタクシーに
上着忘れてた。あんな大きな物を
忘れてしまうんだから、そりゃ、
気が付かない内に人生でも大切な
ことを沢山忘れてるんでしょな。

劇団ひトりは、日本のお笑いタレント、司会者、俳優、声優、作家、映画監督。千葉県千葉市花見川区出身。太田プロダクション所属。妻はタレントの大沢あかね。

Column

面白いエピソードトークに大切なメッセージを添えるところはさすが演者であり演出家であり芸人の劇団ひとりさんならではの感心し、名言かはわかりませんが今回採用しました。タクシーに乗り込むまでは肌寒くて上着を羽織っていたのですが、乗り込んで温まったから上着を脱ぎ、快適すぎて外の寒さや上着を持っていることを“なんとなく”忘れてしまったのでしょ。人生というスケールの大きな話まで行かなくても、みなさんの日常の中でも“なんとなく”が原因で忘れてしまうということはいくつもの経験ではないでしょうか。

大変な苦勞をして手に入れたものだとしても、いざ手に入れてしまうと油断して雑に扱ってしまったり、その存在だけでなく手に入れるための苦勞さえ忘れてしまったという経験は私にもあります。忘れていたことに気づいた時に当然ですが『なんで…あんなに苦勞して手に入れたのに…』と、大きな後悔に襲われましたが、それほど人は“慢心”によって歩みが止まってしまう生き物なのだとということと安心感があることは非常に素晴らしいことですが安心と“慢心”は確実に区別するべきだと今回の言葉に触れて改めて感じました。

苦勞したことでつい忘れてしまいがちなところがあるわけですから苦勞することなく手に入っていたものについては、それが貴重なものだったとしても当たり前過ぎて忘れるところか自分の財産であることにさえ気づいていない事も考えられます。例えば家族や仲間から注がれている愛情です。今みなさんが正智深谷高校に通うことができていること、学校で授業が受けられること、仲間たちと談笑できること、お昼ごはんが食べられること、家に帰ればご飯が出てくること、洗濯された衣服が準備されていること、暖かい部屋で眠れることは当たり前ではありません。みなさんを取り巻く全てが財産です。忘れず大切にしていきましょう！